

川越城・絵図に描かれていない堀

市役所が建っている場所が、かつて川越城への入り口部分であったことをご存じですか？ 過去の資料などから、本庁舎のすぐ前に、三日月型の堀と丸馬出と呼ばれる土居が築かれていたと考えられます。そして、東庁舎前の交差点付近には、大手門があったようです。

平成十六年に行った、東庁舎東側の発掘調査で、私たちが目にする事ができる「川越城図」などの絵図には描かれていない、大規模な堀が発見されました。この堀の上端の幅は十二メートルを超え、深さは五メートルに達するものでした。出土したかわらけなどの遺物の年代は、十六世紀末から十七世紀初頭と考えられます。また、堀は寛永十六年（一六三九）から寛文二年（一六六二）に松平信綱が川越城主だったころに実施された、城の修築に伴う造成工事と同時に掘られたか、造成してからあまりたたないうちに掘られ、すぐに埋め戻されたことがわかりました。



発掘調査で見つかった堀

なぜ、このようなことが行われたのでしょうか。現在のところ正確なことは、わからないのが実情です。しかし、同ような例が、城内のほかの場所からも確認されていることから、信綱の子・輝綱が城主のころに、川越城の修築が完了するまでの段階で、堀などの土木施設の配置をする縄張の見直し、幾度も行われたのかもしれない。

どんぐり

編集後記

市役所西側の窓から銭湯の煙突が見えて、午後になると煙が上がり、やがて薄らいでいきます。30数年前、横町の風呂屋を歌った「神田川」という歌が大ヒットしました。当時友人の住んでいたアパートには風呂がなく、いっしょに銭湯に行ったのを懐かしく思い出します。平成元年には11軒あった市内の銭湯は、現在元町1丁目の旭湯だけ。銭湯は減り続け、「スーパー銭湯」に変化しました。銭湯の歴史は古く、江戸時代以前からあって、庶民にとっては上下の関係なく裸のつきあいが出来る憩いの場だったようです。市では、自宅に入浴の設備がない65歳以上の方に無料入浴券を、また敬老銭湯事業などを行っています。小江戸川越の銭湯が、いつまでもふれあいの場や情報交換の場として健在でありますようにと願ってやみません。

世界の国から、こんにちは！



ブラジル/エドアルド・サンサオ・ホッテさん

昨年8月に日本に来て、市内の高校に留学しています。7月にはブラジルに戻るので、とてもさみしいです。料理がおいしくて、テレビ番組がおもしろくて、ブラジルでの生活を忘れるくらい日本の生活を楽しみました。高校では、ブラジルの高校と違うところがあって、たいへんだったけど、楽しかったです。体育祭でみんなのお手伝いをしたことが思い出です。川越は日本らしいイメージそのままのまちです。またいつか日本に来て、大学で勉強をしたいと思っています。

*外国籍市民の皆さんを対象にした催しは15ページ・20ページ、相談は27ページをご覧ください。

国際交流課国際交流担当・TEL内線2141